

東京大学 文書館ニュース

The University of Tokyo Archives Newsletter

vol. 67, Sep. 2021

～小泉八雲を資料に見る～



「職員進退録 明治35年 2冊の内(甲)」
参照コード：S0018/SS01/0034

作家・日本研究者である小泉八雲は、東京帝国大学で教鞭をとっていたことが知られていますが、そのことは大学の文書でも確認することができます。
この文書では、八雲が1902（明治35）年度の1年間、東京帝国大学文科大学講師に囑託されたことや、1か月にどれだけの手当金を受け取っていたかなどを知ることができます。

Contents

- 2 東京大学文書館におけるデジタルアーカイブのこれから
元 ナミ
- 4 柏分館における炭酸ガス燻蒸導入
秋山 淳子
- 5 レファレンスのご紹介
森本 祥子、星野 厚子
- 6 資料の公開について
- 7 業務日誌（抄）
（2021年2月～2021年7月）
- 8 文書館トピックス
柏図書館サイエンスカフェ「図面と資料から見る東京大学キャンパスの系譜」開催
秋山 淳子

炭酸ガス燻蒸開始



柏分館で受入資料の炭酸ガス包み込み燻蒸を実施しました。
→詳細は、4ページに！



東京大学文書館
The University of Tokyo Archives

東京大学文書館におけるデジタルアーカイブのこれから

東京大学文書館助教 元 ナミ

• デジタルアーカイブ研究のきっかけ

これまで筆者は主に日本と韓国における地方公文書館の設立過程と運営の向上をテーマとして研究を進めてきた。両国におけるアーカイブズ学の理論や公文書館の理念構築に多く影響を及ぼしてきたイギリスとアメリカなどを含め、海外における地方公文書館の運営とそれを支える法的根拠、運営と事業の範囲、財源確保等について検討を行っている。

日本と韓国に限らず、中央政府の記録を受け入れる国立公文書館の制度が地方の公文書館制度とバランスよく発展しているかといえば、そうでもない場合が多い。欧米の公文書館、アーキビスト協会等の年報等を参照すれば、公共機関における財政の逼迫により、公文書館に配分される予算が年々減額される傾向にあることがわかる。それに応じて、運営に必要とされる最低限の予算以外の財源を、外部の基金、助成金プロジェクト等から調達する事例も増えている。これに加え、所蔵資料の整理と公開のためにさらなる資金が必要になった場合、プロジェクトの成果をなるべく広く公開し、より多くの人々が自由に利用できるよう、デジタルコンテンツとして活用する方法も含めて提示することが資金の獲得につながるといわれている。獲得した資金は、公文書館がウェブ上で資料を公開するデジタルアーカイブ（以下、DA）の用意に使うことができる。

日本においても優れた既製の DA システムを導入・運用する地方公共団体が増えているが、関連する DA 運用のランニングコストを含め、導入時からの諸費用の負担が少なくないといわれている。そのため、電子的な目録検索の体制さえも整っていない公文書館が多く存在することが現状である。

そこで、地方公共団体等の公文書館において、比較的導入費用が少なく、使いやすいオープンソースソフトウェア（Open Source Software、OSS）によって、DA システム構築に関わるアプリケーション等を検討することが重要であると認識するに至った。結果、一見筆者の研究テーマと関係が少ないように思われるかもしれないが、地方公文書館の運営にも欠かすことのできないデジタルコンテンツの利活用とその促進を目指す DA 構築の方策までを研究の視野に入れるようになった。

• これまで検討してきた OSS のデジタルアーカイブ関連ツール

ここではこれまで検討してきた DA 関連ツールの一部を紹介する。費用が無料の¹ OSS であり、小規模のアーカイブズ機関の ICT 初心者の職員でも比較的導入しやすいものとして、以下の点が共通している。

- ウェブベースのため、デバイスごとのインストールが不要
- 導入事例が多く、継続的に研究・開発されると期待されている
- 国際標準準拠のメタデータを採用し、汎用性と互換性がある・費用を負担すれば導入から維持管理まで、専門業者等に任せられる可能性がある
- 利用者フォーラムが充実しており、開発者との質疑

応答ができる（ほとんどは英語ベース）

• ICT の専門的知識に乏しい場合も導入のハードルが低く、カスタマイズする能力があれば活用度が高まる
以下、ここでは所蔵資料の検索、閲覧と管理機能が充実した AtoM と Omeka を中心に、これらと連動して電子記録にも対応できるいくつかのアプリケーションを紹介する²。

- AtoM (Access to Memory、アトム) : 国際公文書館会議 (International Council on Archives、ICA) の支援により開発されて以来、現在はカナダの Artefactual Systems 社により引き続き開発されている。複数のユーザー及び多機関同士で利用可能。メタデータはアーカイブズ記述の各種国際標準などに準拠している。大量の目録電子ファイルを簡単にインポートできる。もちろん、各種電子ファイルの閲覧機能も備え、一般ユーザーの検索も可能となっている。記述標準以外の記述項目を増やせない点など、従来の日本の古文書目録形式等がそのまま掲載できないといった指摘もある。多言語対応が可能であるが、日本語の翻訳はまだまだ不十分である。多少の ICT 知識の他、目録作成のために記述標準の正確な理解が要求される。現在、日本において文化庁国立近現代建築資料館収蔵資料検索システム (図 1) が AtoM ベースで構築・公開されており、組織内外のニーズに合わせて導入を検討する事例が増えている。



図 1 文化庁国立近現代建築資料館収蔵資料検索システムトップページ³

- Omeka (オメカ) : 主にウェブコンテンツやデジタルコレクションを公開するためのコンテンツ管理システム (Content Management System、CMS)。汎用性の高いダブリンコアメタデータに準拠しており、比較的簡単に目録の作成や電子ファイルの掲載ができることで世界中に利用者が多い。各種機能がモジュール化されており、ICT の専門的知識に乏しい場合もインストールと操作が容易にでき、小規模機関等において利用されている事例も多い。2017 年以降、より高度にカスタマイズができる Omeka S が正式公開され、既存の Omeka は Omeka Classic に名称が変更された。日本においても Omeka を積極的に導入する事例が増えており、専門家による日本語での情報発信がなされている⁴。

当館では DA の管理と公開システムとして Omeka S を導入した。2018年6月、必要な機能を追加開発し、ユーザーインタフェース等を調整したうえで本公開に至った⁵。図2は現在運用している当館検索画面の例である。



図2 東京大学文書館の検索システムのトップページ例⁶

AtoM と Omeka は主に目録検索と電子ファイルの閲覧機能が充実している。筆者は、これらのアプリケーションと連動し、デジタル資料の長期保存とアクセスを担保するシステム構築の可能性を検証しているデジタルアーカイブ自主研究会「入澤道場」に参加し、主に以下のアプリケーションを検討した。その成果はメンバー各人により論文等で発表されており、研究会の活動記録はウェブ上で公開されているため⁷、本稿ではアプリケーションの主な機能を中心に紹介する。

- ・ Bit Curator (ビットキュレーター)：ノースカロライナ大学チャペルヒル校を中心に、アーカイブズ機関等において収集されるデータのデジタル・キュレーションをデジタル・フォレンジックの技術を用いて実行するために開発されたソフトウェア。
- ・ ePADD (イーパッド)：Eメールの保存と利用を目的にスタンフォード大学で開発されたツール。電子メールアーカイブの鑑定、処理、保存、発見、配信機能を備えたアプリケーション。歴史的・文化的価値のある電子メールコレクションへのアクセスや検索をサポートする。
- ・ Archivematica (アーカイブマティカ)：Artefactual Systems 社開発。信頼性と真正性のあるデジタルコンテンツの長期的な保存とアクセスのために開発されたアプリケーション。電子記録の長期保存の要件を満足させる OAIS 参照モデルなど国際標準規格に準拠しており、Preservica のような既製品とともに、世界中で導入事例も多い。
- ・ Alfresco (アルフレスコ)：組織における電子記録の起案から決裁までのプロセス、監査、移管などからコンテンツ管理までの機能を備えている。記録管理の各種国際標準のほか、アメリカやヨーロッパの標準などをベースに作られた現用記録及びコンテンツ管理ソフトウェア。既製品として発売されているが、一部の機能を除くと、OSS でも利用可能である。

海外に比べ、日本ではこういった DA 関係のアプリケーションの導入実績がさほど多くはない。しかし、Omeka の導入例は比較的多く、続いて他機関同士の共同利用や組織内利用のために AtoM の導入を検討する報告も増えている。Alfresco は既製品として企業での導入事例が報

告されている。その他のアプリケーションについては、日本ではこれといった導入例が報告されていない。

OSS ベースの DA システム導入に伴う維持管理面でのリスクとコスト発生の可能性が存在するため、バグやエラーに対応できる ICT 専門家が常駐しない日本の公共機関等においては、OSS ベースの DA システム導入のハードルが高くなっているかもしれない。この点を見据え、今後は OSS の利点を生かして低コストで、必要最低限の機能を満たす安定的な DA システムのパッケージ化を構想していきたい。

・東京大学文書館におけるデジタルアーカイブのこれから

公文書管理や保存体制を取り巻く状況は近年転換期を迎えている。2019年、内閣府はこれまで紙媒体でのやり取りが中心となっていた公文書の作成、移管のプロセスを新たな国立公文書館の開館時期の2026年を目途に、本格的な電子的管理に移行すると発表した⁸。さらに2020年9月、日本で初めてデジタル庁を設置することが発表され、わずか1年後の2021年9月1日の発足に向けて行政や公共団体における関連作業の検討が進められた。その中で「デジタル社会の形成についての基本理念」⁹ののちとって国と地方公共団体等は関連する施策を策定し、及び実施する責務を有することになった。

学内外においてデジタルトランスフォーメーション (Digital Transformation、DX) の議論が急速に進められている。従来の紙ベースで行われてきた記録の作成・管理体制にも大きな変化が起こることが予想される。それに伴い、当館は電子記録の移管と収集、それらの長期保存と利用体制の整備といった課題に直面している。これから DA 部門は既存のデジタル化事業の推進と DA システム運用にかかわる当面の課題に向き合いながら、学内における記録管理プロセス全体の変化に能動的に対応するための研究体制を備えていくことが望ましいだろう。これまでの電子記録の管理と長期保存に関する検討事項と研究成果を取り入れつつ、電子記録が利用できる DA を整備、発展させることを目指し、関連分野と連携を図りながら学際的研究にも積極的に取り組んでいきたい。

(うおん なみ)

- 1 無料とはいえ、サーバーのホスティングサービス、システム維持管理に関わる諸費用、人件費などは別途検討が必要。
- 2 この分野におけるアーカイブズ学等の既発表の研究成果も発表されているが、本稿では紙面上割愛する。また、本稿で紹介した各種アプリケーションは検索することで容易にアクセスできるため、サイト情報を割愛する。
- 3 <https://db.nama.bunka.go.jp/index.php/>
- 4 デジタルアーカイブシステムの技術ブログ <https://nakamura196.hatenablog.com/> (2021-07-30 閲覧)
- 5 当館デジタルアーカイブの公開と詳細な取組みについては、『東京大学文書館紀要』及び『東京大学文書館ニュース』を参照。
- 6 <https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/docarchive/>
- 7 入澤道場 <http://irisawadojo.blogspot.com/> (2021-07-30 閲覧)
- 8 「行政文書の電子的管理についての基本的な方針」(平成31年3月25日、内閣総理大臣決定) <https://www8.cao.go.jp/chosei/koubun/hourei/kihonnstekihousin.pdf> (2021-07-20 閲覧)
- 9 デジタル社会形成基本法 (令和三年法律第三十五号、令和三年九月一日施行) 参照。

柏分館における炭酸ガス燻蒸導入

東京大学文書館助教 秋山 淳子

1. 概要

寄贈等にもなう外部受入資料の殺虫・殺卵処理は、文書館開設以来の重要課題のひとつであった。当館施設は本郷・柏ともに複数部局が入居する建物内の一部で、独立した広い作業スペースでの燻蒸実施が難しい。そのため、当初より柏分館内での燻蒸方法を検討していたが、2020年度末にイカリ消毒株式会社の協力のもと、炭酸ガス包み込み燻蒸を開始することができた。

実施場所は、総合研究棟6Fにある資料整理室内のオープンスペース（約15㎡）で、ガスの屋外放出が可能な開閉窓がある部分を使用した。ここにイレクターパイプの骨組みにガスバリアシートを被せた幅2.6m・奥行2.7m・高さ1.6mのテント（容積約7㎡）を設置し、99.5%濃度の二酸化炭素を充填、濃度60%～80%で14日間以上維持する方法で燻蒸を行うこととした。

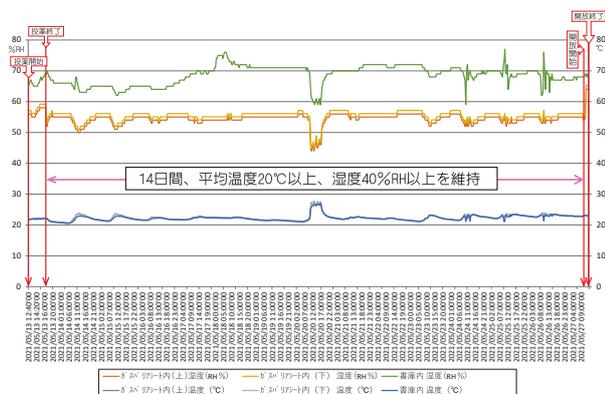
なお、複数の部局が使用する建物内での薬品使用および使用済ガスの屋外放出となるため、事前に業務内容と期間の詳細を関係全部局へ周知して協力を得るとともに、燻蒸期間は当該室の入口に「立入禁止」表示を施し、安全性の確保に努めた。

2. 実施状況

これまでの実施期間は次のとおりである。

- ・2020年度 第1回：2021年1月14日～2月3日（21日間）、第2回：2月15日～3月2日（16日間）
- ・2021年度 第1回：2021年5月13日～5月27日（15日間）、第2回：5月28日～6月14日（16日間）

導入当初は想定よりも室温が低温となり、十分な効果を得るのに必要な平均温度20℃以上・平均湿度40RH%を維持することができず、温度上昇に要した日数分を加算することで14日間を確保した。以後温湿度管理を徹底し、作業時間を前後に付加した15～16日で燻蒸を実施できるようになっている（グラフ1）。



グラフ1 温湿度測定結果：2021年5月13日～5月27日（イカリ消毒株式会社「炭酸ガス包み込み燻蒸報告書」より）

また、二酸化炭素濃度はすべての回で60%以上維持が確認できた。作業手順は、緩衝用養生シートと骨組み設置後、資料搬入、ガスバリアシート溶着による密閉の

のち投棄を開始。二酸化炭素の比重が空気1に対し1.5であるため、内部に設置した攪拌機で上部・下部ともに濃度が60～80%となるよう調整し、経過を観察、14日経過確認後、ガスを窓部分から屋外放出した（グラフ2）。

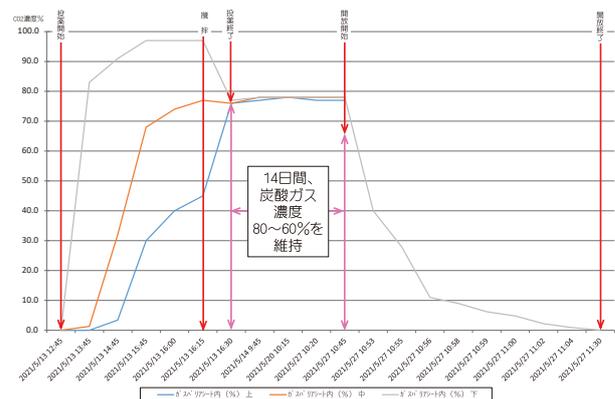
燻蒸結果は公益財団法人文化財虫菌害研究所に判定を依頼し、すべての回で十分な効果が確認されている。



写真1 資料搬入の様子



写真2 二酸化炭素充填後のテント



グラフ2 二酸化炭素濃度測定結果：2021年5月13日～5月27日（イカリ消毒株式会社「炭酸ガス包み込み燻蒸報告書」より）

3. 成果と課題

開館以来の課題であった炭酸ガス燻蒸を導入できたことは大きな成果である。従来は無酸素パックによる簡易処理のみで、効果判定も未実施のため、多くの受入資料が本格的な殺虫・殺卵処理ができないまま未整理となっていた。炭酸ガス燻蒸導入により、これらも順次処理し、目録公開を大きく推進できる状況が整備されたといえる。とくに学生寮関係資料はすべて燻蒸完了、整理着手可能となったので、本学創設150周年記念事業にも提供していきたい。

今後の課題としては、燻蒸方法の確立をふまえ、館内の恒常的業務フローへの組み込みを進めたい。今年度は予算編成段階から計画化したが、対象資料の選定や年間スケジュール調整などで試験的な取組みとなった。今回の成果を基礎に、次年度以降はより適切な計画的実施にむけて検討を重ねていく予定である。

（あきやま じゅんこ）

レファレンスのご紹介

文書館には学内外から様々な問い合わせが寄せられます。
今号では、2つの事例をご紹介します。

Q1 安田講堂をできるだけ建設当時のかたちに復元・修復することになったのですが、文書館には何か参考になる資料はありませんか？（大学施設部からの問合せ）

A1 建設当初の様子を知るためには、図書類や建築資材、内装の意匠などの情報が必要になると思われます。文書館には資産管理の観点から作成された文書が保存されており、使えそうです。

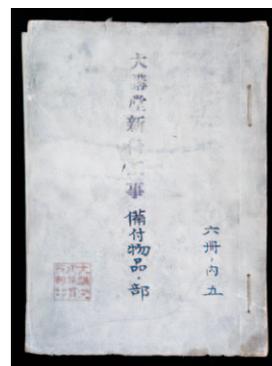
主なものでは、「経理部管財課旧蔵資料」(S0040)や「資産管理部資産課旧蔵資料」(S0042)という文書群があり、安田講堂建築関係文書が複数あります。これらには、基本となる平面図(S0042/0049)はもちろん、講堂内の椅子のデザインや仕様書などが綴じられた文書(S0040/0094)もありますので、内装の細かなところまで復元可能でしょう。

他に卒業アルバムや大学作成のアルバム(F0025)、記録写真もあります。「安田家寄附東京帝国大学大講堂上棟式記念」(F0025/S03/0008)は、建て始めの構造を確認するのに使えそうです。卒業アルバムには安田講堂の外観・講堂内観の写真が載っていることが多く、その時々状況が確認できます。

個人からの寄贈資料では、安田講堂の建築課長を務めた工学部教授の内田祥三関係資料があります。このうち「大講堂・図書館(含大震災)」(F0004/A/8)の分類に、工事報告書や経費計算書類が残されています。断片的ではありますが、メモ的な資料からはかえって検討の過程が追えることもあります。

大学の事業のために作成された文書が時を経て文書館に引き継がれ保存されている、そしてそれが再び大学の事業の役に立つ。文書館冥利に尽きますね。

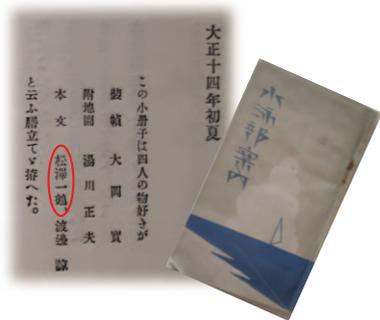
(森本 祥子)



「大講堂新営工事備付物品ノ部 六冊ノ内五」
(S0040/0094)

Q2 東京帝国大学を卒業し日本水泳連盟理事などを歴任した松澤一鶴と、帝大水泳部に関する資料を探しています。(学外からの問合せ)

A2 当館が所蔵する、本学関係者を特定する手がかりになる資料として、在学生や卒業生の場合は、学科ごとに氏名が網羅的に記載されている『東京帝国大学一覽』などの「大学一覽」や『卒業生氏名録』、教職員の場合は、人事記録をまとめた「職員進退」(S0018)が挙げられます。また、当館デジタル・アーカイブ(<https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/page/home>)の史料室アルバム(F0025)で、ご本人の姿を確認できる場合もあります。



『水泳部案内』に
松澤一鶴の名

松澤一鶴は、『東京帝国大学一覽 従大正十五年 至昭和二年』によって、1927(昭和2)年3月に東京帝国大学理学部化学科を卒業したことが確認できました。こちらは、国立国会図書館デジタルコレクションでも公開されています。

また、当時の大学の活動を知る上で有効な資料のひとつに、『帝国大学新聞』があります。その縮刷版(不二出版刊)の「記事・執筆者索引」によると、1925(大正14)年9月～1942(昭和17)年4月にかけて、松澤は30本の記事を執筆していますので、手がかりがあるかもしれません。

当館デジタル・アーカイブのキーワード検索で「松澤一鶴」はヒットしませんでした。しかし、「水泳部」と検索したところ、1925年6月に東京帝国大学学友会から刊行された小冊子『水泳部案内』(F0217/S2/SS3/SSS3/050)が見つかりました。この冊子は、東京帝国大学医科大学薬学科を卒業し、のちに日本游泳連盟の役員なども歴任した田口文太の関係資料の中にあるものです。当時の水泳部の活動と様々な泳法について、松澤が分担執筆しています。こちらは本郷本館で閲覧可能です。ご活用ください。

(星野 厚子)

資料の公開について

(2021年2月1日～2021年7月31日)

上記期間内に整理を終え、新たに公開した特定歴史公文書等ならびに歴史資料等は、以下のとおりです。

(新規登録資料群＝★)

※概要記述とアイテムリスト(目録)は、当館のデジタル・アーカイブからご確認いただけます(<https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/page/home>)。

特定歴史公文書等

事務	
S0009	例規
S0018	職員進退
S0020	公民・成人教育関係
S0200	内部監査
S0201	オープンキャンパス
S0207	国際学生宿舎管理
S0208	入学科・授業料免除及び奨学金
S0223	学生委員会
S0241	放射線安全委員会
S0289	外国人学生在籍状況調査
S0311	総長と報道機関等との懇談会
S0312	報道機関対応
S0339	産学連携専門委員会
S0340	産学連携本部運営委員会
S0350	環境安全本部会議
S0351	安全衛生管理室長会議
S0353	土地・施設等取得・譲渡
S0358	ハラスメント防止委員会
S0359	五月祭
S0366	学生団体設立・継続届
S0371	入試制度検討関係
S0415	総長室総括委員会
S0416	科学技術研究調査回答
S0417	研究活動等状況調査回答
S0419	学術研究懇談会(RU11)
S0421	国立大学法人に係る寄附の実績等に関する調査回答
S0450	外国人留学生支援基金運営委員会
S0459	伊藤国際学術研究センター イベント関係
S0469	学生表彰関係
S0470	教職員研修関係
S0471	職員採用試験
S0487	障害者雇用関係
S0491	「東大の研究室をのぞいてみよう!」プログラム関係
S0492	団体交渉関係資料
S0550	情報セキュリティ委員会
S0582	★ 加速器科学研究センター(仮称)設置検討
S0592	★ 国立七大学安全衛生管理担当者連絡協議会
S0593	★ 教職員安全衛生教育
S0594	★ 埋蔵文化財調査
S0595	★ 雑件
S0596	★ 東京大学功績者顕彰制度(櫻門賞)
S0597	★ 復興支援室業務関連資料
S0599	★ 東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム(東大EMP)
S0600	★ 全委員会名簿
S0601	★ 社会連携連絡会議
S0602	★ 高大連携事業
S0603	★ 国際交流協定
S0614	★ 日中学長会議
S0616	★ プレジデント・カウンシル
S0617	★ 科学研究行動規範委員会
S0618	★ ライフサイエンス委員会
S0619	★ 本郷地区衛生委員会
S0620	★ EAP(従業員支援プログラム)事業
S0626	★ 大学教育改革状況調査
大学院・学部	
S0248	工学系研究科・工学部 予算・決算
S0251	歴代工学部長・研究科長懇談会
S0253	工学系研究科・工学部 広報室会議
S0255	工学系研究科・工学部 安全管理
S0276	総合文化研究科・教養学部予算
S0279	経済学研究科修士課程入学試験問題集
S0283	医学部運営委員会
S0284	医学系研究科 各種委員会
S0287	医学部将来計画委員会
S0288	医学系研究科・医学部 教授会
S0302	農学生命科学研究科・農学部 教授会
S0305	生物生産工学研究センター 運営委員会
S0306	農学生命科学研究科・農学部 運営諮問会議
S0317	学際情報学府 教務委員会
S0319	情報学環・学際情報学府 総務委員会
S0328	数理学研究科 実務委員会
S0331	数理学研究科 運営諮問会議
S0373	★ 東京高等学校関係文書
S0389	工学系男女共同参画委員会
S0393	附属病院 委員会関係
S0398	附属病院 病院会議・病院運営会議
S0399	附属病院 教室主任会議

S0402	附属病院関係規則
S0409	農学部・農学生命科学研究科 予算関係報告綴
S0411	農学部 学部教育会議
S0443	数理学研究科 入試問題
S0454	経済学部 図書委員会
S0460	国際工学教育推進機構センター長会議
S0461	情報理工学系研究科 入試委員会
S0479	工学系研究科・工学部 運営会議資料
S0489	研究教育改善室会議
S0490	新領域創成科学研究科 企画室会議
S0496	工学部化学系生命系 運営会議
S0527	教育学研究科・教育学部 教授会議事録
S0533	牧場運営委員会
S0565	公共政策学教育部運営諮問会議
S0576	★ 理学系研究科 入試実施委員会
S0587	★ 附属病院 事務関係資料
S0588	★ 附属病院 院内懇談会
S0589	★ 附属病院 新診療科設置
S0590	★ 附属病院 施設関係記録
S0591	★ 奸仁会
S0607	★ 農学部動物実験委員会
S0608	★ 農学生命科学研究科 規則改正関係
S0609	★ 農学生命科学研究科・農学部 ヒトを対象とする研究倫理審査委員会
S0610	★ 医学系研究科・医学部 ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会
S0611	★ 医学系研究科附属 疾患生命工学センター運営委員会
S0612	★ 医学系研究科・医学部 推薦入試
S0613	★ 人文社会学系研究科・文学部 各種委員等一覧
S0615	★ 附属病院 医療情報システム
附置研究所	
S0206	東洋文化研究所 教授会
S0214	物性研究所規則改正関係
S0220	応用微生物研究所・分子細胞生物学研究所 教授総会
S0227	先端科学技術研究センター 経営戦略会議
S0245	地震研究所 将来計画委員会
S0246	地震研究所 企画運営会議
S0322	地震研究所共同利用実績報告
S0324	地震予知研究協議会
S0335	宇宙線研究所教授会
S0391	名誉教授懇談会
S0418	社会科学研究所 社会調査・データアーカイブ研究センター運営委員会
S0427	社会科学研究所 所内予算
S0435	東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター運営委員会
S0436	東洋文化研究所 研究企画委員会
S0438	東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター委員会
S0448	東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター 共同利用・共同研究拠点事業
S0464	生産技術研究所 教育・学務委員会
S0465	生産技術研究所 ユーティリティ委員会
S0475	先端科学技術研究センター 教授総会議事録
S0480	生産技術研究所 次世代育成オフィス
S0499	生産技術研究所 社会人新能力構築支援(NExT)プログラム
S0545	先端科学技術研究センター ボード会議
S0560	地球観測データ統合連携研究機構運営委員会
S0567	生産技術研究所 産学連携委員会
S0571	★ 千葉実験所管理運営委員会
S0586	★ 物性研究所外来研究員等委員会
S0604	★ 生産技術研究所 遺伝子組換え生物等安全委員会
S0605	★ 生産技術研究所 動物実験委員会
S0606	★ ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構運営委員会
S0625	★ 生産技術研究所 安全管理委員会
全学センター	
S0205	アイソトープ総合センター 運営委員会
S0237	★ 空間情報科学研究センター 運営委員会
S0239	★ 人工物工学研究センター運営委員会
S0260	情報メディア教育専門委員会
S0538	情報基盤センター 運営委員会
S0552	スーパーコンピューティング専門委員会
歴史資料等	
教員資料	
F0029	佐藤銀五郎関係資料
F0035	★ 稲垣栄三関係資料
その他	
F0025	史料室アルバム

上記期間中も個人や団体から多数の資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。今後も引き続き、東京大学に関係する資料・学内刊物のご寄贈をお待ちしています。

業務日誌(抄)

(2021年2月～2021年7月)

※(本): 於本郷本館、(柏): 於柏分館

2月1日	森本、国立近現代建築資料館情報小委員会出席(オンライン)	5月20日	森本、世田谷区公文書管理委員会出席
2月2日	森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席(オンライン)	5月24日	秋山、百五十年史編纂室会議陪席(オンライン)
2月3日	森本、秋山、文書管理説明会出席(オンライン)	5月25日	第75回館員打合せ(柏) 資料移送(本郷→柏)
2月8日	附属図書館情報管理課選書受入係より参考図書寄贈	5月28日	イカリ消毒による炭酸ガス燻蒸(～6/14)(柏)
2月10日	取蔵庫671号室、火災感知器移設・増設工事(柏)	6月1日	S0026資料修復のため紙資料修復工房へ依頼
2月12日	取蔵庫防虫のためのエヤローチ散布(本) 取蔵庫653号室、照明工事(柏)	6月6日	元、全史料協近畿部会第156回例会、近畿部会第29回総会・シンポジウムに出席(オンライン)
2月15日	森本、世田谷区公文書管理委員会出席 イカリ消毒による炭酸ガス燻蒸(～3/2)(柏)	6月7日	令和2年度第1回文書館運営委員会(オンライン) 取蔵庫空調24時間稼働開始(柏)
2月16日	森本、秋山、宮本、千代田、星野、第4回東京大学 学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー参加(オンライン)	6月9日	森本、秋山、元、「国際アーカイブズ週間」記念講演 会出席(オンライン)
2月17日	環境整備チームによる書棚清掃(～2/24)(柏) 事務室什器入替(本)	6月10日	森本、秋山、元、全国公文書館長会議出席(オンライン)
2月22日	秋山、平野財務部長インタビュー参加(オンライン)	6月11日	秋山、第2回柏一般公開担当者会議出席(オンライン) 元、逢坂、ジャパンサーチ連携説明会参加(オンライン)
2月24日	第72回館員打合せ(柏)	6月12日	元、逢坂、立教大学共生社会研究センター主催「オープンでフリーなAtoMを使う」参加(オンライン)
2月26日	森本、八王子市公文書館整備に関する有識者検討会 出席(オンライン) 森本、千代田、2020年度自然科学系アーカイブズ研 究会参加(オンライン)	6月14日	除湿機稼働開始(柏)
3月2日	森本、秋山、岡田靖雄氏と寄贈協議(F0274、3/8受入)	6月15日	取蔵庫防虫のためのエヤローチ散布(本)
3月5日	森本、三重県公文書等管理審査会出席(オンライン)	6月18日	取蔵庫659、661、663号室、空調設備工事準備のため 施設部視察(柏)
3月9日	森本、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅱ出講(オンライン) 星野、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅱ参加 (～3/10)(オンライン)	6月21日	秋山、百五十年史意見交換会出席(オンライン) 東大の活動制限指針をレベルAに引き下げ 環境整備チームによる排水作業開始(柏)
3月10日	森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席(オンライン)	6月23日	環境整備チームによる書架清掃(～6/24) 元、部局情報セキュリティ責任者(部局CISO)連 絡協議会出席(オンライン)
3月15日	森本、世田谷区公文書管理委員会出席 千代田、アジア研究図書館開館記念シンポジウム参 加(オンライン)	6月24日	森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席(オンライン)
3月16日	イカリ消毒による所蔵資料クリーニング(～3/18)	6月25日	教員ミーティング(柏)
3月17日	森本、アーカイブズ研修Ⅲ論文等審査委員会出席	6月29日	第76回館員打合せ(柏) 資料移送(本郷→柏)
3月18日	森本、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部 会研究会出席(オンライン)	6月30日	森本、部局CERT責任者会議出席(オンライン)
3月19日	東大の活動制限指針をレベル0.5に引き下げ	7月1日	森本、秋山、国立公文書館記念式典参加(オンライン)
3月23日	森本、八王子市公文書館整備に関する有識者検討会出席 取蔵庫防虫のためのエヤローチ散布(本)	7月6日	元、逢坂、OmekaSバージョンアップ等について打 合せ(オンライン)
3月24日	第73回館員打合せ(柏)	7月7日	閲覧再開(条件付)
3月26日	福田裕穂氏より福田裕穂関係資料(F0275)寄贈	秋山、第25回柏図書館サイエンスカフェ「図面と資 料から見る東京大学キャンパスの系譜」講演(会場・ オンライン)	
3月29日	森本、科研費による研究会出席(オンライン)	7月8日	森本、ハラスメント予防担当者連絡会議出席(オン ライン)
3月31日	宮本隆史助教退職	7月9日	秋山、第3回柏一般公開担当者会議出席(オンライン) 取蔵庫防虫のためのエヤローチ散布(本)
4月1日	元(ウォン)ナミ助教着任 吉井幸一担当課長着任	7月12日	東大の活動制限指針をレベルBに引き上げ
4月5日	第20回柏図書館企画展示「図面と資料から見る東京 大学キャンパスの系譜(続)」開始(柏)	7月14日	元、逢坂、OmekaS改修について打合せ(オンライン)
4月8日	教員ミーティング(柏)	7月15日	森本、世田谷区公文書管理委員会出席(オンライン) 第二本部棟地下取蔵庫に雨漏り確認(本)
4月13日	森本、世田谷区公文書管理委員会出席(オンライン)	7月16日	元、逢坂、全史料協関東部会第309回定例研究会に て報告(オンライン)
4月14日	環境整備チームによる書架清掃(柏)	7月19日	秋山、百五十年史意見交換会出席(オンライン) 英語英米文学研究室より英文院生協議会関係資料 (F0282)寄贈
4月15日	取蔵庫防虫のためのエヤローチ散布(本)	7月20日	教職員向け総長対話(オンライン)
4月23日	医学図書館より文書移管 秋山、「有馬朗人先生お別れの会」出席	7月26日	第77回館員打合せ(オンライン) 森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席(オンライン)
4月27日	第74回館員打ち合わせ(本) 東大の活動制限指針をレベル準1に引き上げ	7月28日	森本、秋山、元、国立公文書館アーキビスト認証に 係るヒアリング対応(オンライン)
4月28日	資料移送(本郷→柏)	7月31日	元、立教大学共生社会研究センター主催オンライン セミナー「大学におけるデジタル・レコードキー ピングーシドニー大学の挑戦」参加(オンライン)
5月13日	イカリ消毒による炭酸ガス燻蒸(～5/27)(柏)		
5月14日	秋山、第1回柏一般公開担当者会議出席(オンライン) 文書館DA更新改修等について館内打合わせ(オン ライン)		
5月17日	取蔵庫防虫のためのエヤローチ散布(本) 取蔵庫空調24時間稼働開始(本)		

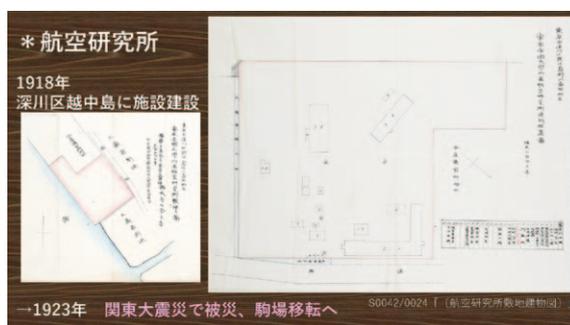
文 書 館 ト ピ ッ ク ス

柏図書館サイエンスカフェ「図面と資料から見る東京大学キャンパスの系譜」開催

東京大学柏図書館の企画展として、2019年の「記録で読みとく『東大紛争』」につづき、2020年・2021年にわたり、文書館制作による「図面と資料から見る東京大学キャンパスの系譜」を開催しています。東京大学の主要3キャンパス：本郷・駒場・柏キャンパスのあゆみを文書館の所蔵資料から跡づけ、敷地図面を使用して視覚的にも対比できる展示です。なぜ現在の東京大学はこのようなキャンパス構成なのか、敷地の形状はいつからこうなったのか…など、「足元に目をやる」と意外な歴史が隠れていることがわかります。

そして企画展に連動し、今年も第25回柏図書館サイエンスカフェとしてギャラリートークを行いました。今回は会場での参加に加え、Zoomを利用したオンライン配信も併用し、ハイブリット形式での実施となりました。

トークは、サイエンスカフェのコンセプト「カフェのような雰囲気の中で専門家と語りあう」に合わせ、展示の紹介から、少し脱線した関連資料や「こぼれ話」なども盛り込み、楽しく学びを深めた時間であったと思います。注目トピックスは、キャンパスの姿を変えた関東大震災、周辺敷地との「土地交換」を通じたキャンパス統合・拡充への模索、そして柏キャンパス新設とその理論的背景である「三極構造」…。パネル展示に使用した資料の現物もお見せしながら、その質感や大きさなども実感していただきました。



参加の先生方からは「長いこと東京大学にいても、全然知らないことばかりだった」と、驚きの声のでる一幕も。記録を通じて、大学の新たな一面に気づく機会となったようです。

多様な要素からなる巨大組織：東京大学の営みを、記録を通じ、的確に理解できるよう活動しているのが文書館です。未来の科学をきり拓く柏キャンパスで、「足元を照らす」文書館の役割は大きいと実感する機会となりました。

なお、当日の配信動画は、当館柏一般公開ウェブサイト (<https://youtu.be/q0PtMeFyVOI>) から視聴が可能です。関心のある方は、ぜひお気軽にキャンパス歴史散歩をお楽しみください。

(あきやま じゅんこ)

東京大学文書館ニュース 第67号

ISSN 0915-3284

発行日：2021年9月30日（年2回発行）

編集・発行：東京大学文書館

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03 (5841) 2077 (直)

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/index.html>

印刷所：松枝印刷株式会社